平成23年行政事業レビューシート　（外務省）

事業名	国際連合薬物統制計画（UNDCP）基金拠出金（任意拠出金）	担当部局庁	総合外交政策局	作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	昭和48年度開始（平成23年度より他のUNODCへの拠出金と統合）	担当課室	国際安全・治安対策協力室	室長　岡島　洋之	
会計区分	一般会計	施策名	Ⅶ-1　国際機関を通じた政務及び安全保障分野に係る国際貢献		
根拠法令（具体的な条項も記載）	外務省設置法第4条第3項 外務省組織令第32条 外務省組織規則第12条	関係する計画、通知等	国連総会決議(第25回(2719(1970年)), 第45回(45/179(1990年)), 第52回(52/220(1997年))),「第52回国連麻薬委員会ﾊｲﾚﾍﾞﾙ会合政治宣言・行動計画」,「第三次薬物乱用防止五か年戦略」,「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」		
事業の目的（目指す姿を簡潔に。3行程度以内）	薬物統制計画基金は,国連薬物犯罪事務所（UNODC）により管理され,国際的な薬物対策，薬物統制を推進・支援することを目的とする基金である。同基金に拠出し，東南アジア諸国における麻薬取締対策事業を実施。				
事業概要（5行程度以内。別添可）	この基金により、不正薬物に関する調査・分析（世界薬物報告書等の作成）、国連加盟国の不正薬物に関する各条約の締結・実施及び国内法整備の支援、不正薬物対策における能力向上のための技術協力（国境管理強化、麻薬患者対策、代替作物開発、薬物鑑識技術の向上など）などが行われるとともに、国連麻薬委員会および国際麻薬統制委員会の活動が支えられている。我が国より同基金に拠出し，東南アジア・大洋州地域でのプロジェクト形成・政策調整，大麻種子取引規制，ラオスでのアヘン・ヘロイン対策職員訓練，ミャンマーでのケシ栽培対策，合成薬物対策などの麻薬取締事業を実施。				
実施方法	□直接実施　□業務委託等　□補助　□貸付　■その他				

予算額・執行額（単位:百万円）

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求
予算の状況	当初予算	213	199	130	—	—
	補正予算	—	—	—	—	
	繰越し等	—	—	—	—	
	計	213	199	130	—	—
執行額		213	199	130		
執行率（%）		100.0	100.0	100.0		

成果目標及び成果実績（アウトカム）

成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値（　年度）
不正麻薬は種類が多く，また不正取引対策のみならず薬物使用に関する対策も必要なため統一的な指標はないが，一つの参考指標として，アジア地域におけるアヘン押収量（ただし暦年統計）	成果実績	キログラム	643,873	649,449	集計中	—
	達成度	%				

活動指標及び活動実績（アウトプット）

		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
不正薬物対策分野の支援のために我が国拠出を使って実施することが計画されたプロジェクト数	活動実績（当初見込み）	件	8	7	8 (　　)	4 (　　)

単位当たりコスト	案件毎に実施経費総額が異なるため算出は困難。	算出根拠	

平成23・24年度予算内訳（単位：千円）

費　目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由
—	—	—	
計	—	—	

事業所管部局による点検			
	評 価	項　　目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	―	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	薬物問題は，我が国に諸外国より覚醒剤や大麻種子が不法輸入されるなど，国際的な対策が必要な分野である。これまで我が国への覚醒剤の流入も多くみられた東南アジア諸国における薬物の生産・流通に対処するための取組も不可欠である。かかる観点から我が国の拠出による薬物対策プロジェクトを実施しており，高い評価とともに謝意が表明されている。今後とも厳しい財政状況の中で更に効率的な事業実施が可能なようにプロジェクト内容の精査に努める。		

予算監視・効率化チームの所見

ー

上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）

ー

補記 （過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）